

●木津川希少種植物調査管理業務の契約される

今年も昨年度と同様に木津川堤防付近の希少植物の保全を目的に調査活動が里山の会の業務とすることになりました。八幡市御幸橋から木津川市加茂町の恭仁大橋上流までの約 40 km に 40 カ所の生育確認をして全面積 16000 m²を観察調査し生育保全を図るものです。私達里山の会が 40 km をくまなく歩き生育の確認が出来たのが 917 種の植物たちでした。そして当時のレッドデータに記載されていたのが 107 か所で生育していましたそのうち絶滅寸前種が 7 種でした。生育地が 27 か所でしたがその後の調査で 40 カ所での発見がされ、その保全に全力を挙げてきました。現在当時からみられなくなったものが 3 種あります。また発見が難しくなっているものも数カ所存在しています。環境の変化や盗掘によるものと思われます。これまで貴重種と指定されているものは、定期的な下刈りがされ、貧栄養という木津川堤防の特徴によって保たれてきました。また砂堤防という土質によるところが大きいと言われて来ました。

●2020 年度里山の会 活動計画決定

新型コロナウイルス感染防止のため全国に緊急事態が宣言され、外出や集会の自粛が呼びかけられ、年度総会が開催できなくなって、ペーパーによる郵送やメールでの議案を送り集約することにして、29 日に社員各人から質問疑問を頂き賛否を集約いたしましたところ、承認を得ることが出来ました。全会員の皆様には会誌 48 号でお届けいたします。2020 年度は、里山の会が結成されたのが 1996 年でしたので結成 25 周年記念を迎えることになります。

記念行事の実施日を昨年 8 月の第 2 回理事会で 12 月 12 日に実行することを決定しました。その日のための準備の内容を決定しました。これが今年の最も力点を入れる取り組みとしています。続いて取り組んで 5 年になる「竹蛇籠の製作と中聖牛の設置」4 群目の取り組みです。これは木津川の河床低下問題や魚の棲み処づくりを目指したもので、京都大学との共同取り組みです。続いて「ヤマトサンショウウオの調査観察活動」、そしてトヨタ環境活動支援を受けた「天然記念物イタセンパラの復活」を木津川で目指す取り組みです。どれも地域活動の中で特徴ある大変意義のある取り組みで NPO らしい地域課題を取り上げた課題です。そのほか「親子花見乗船体験」や「親子で遊ぼう学ぼう魚とり」、「オオムラサキの調査観察会」、「夜の生き物調査」などに加えて里山農園活動の充実にも取り組むことにしています。総会決定の取り組みをさらに充実させるためにご協力をお願いいたします。何よりも結成以来一貫して掲げてきているスローガン「自然を大切にする仲間の輪を大きくする」ために一層のご協力をお願いいたします。

●会誌 48 号最終印刷原稿完成 製本発送はゴールデンウィーク中に

2019 年度の年度末はとにかく任務が錯綜重複する事態になりました。もちろんこの事態を予想してかなり早くから取り組みを始めたのですが、炭焼体験の試行が加わり新型コロナウイルス渦による予想外の出来事です。すっかり手順が狂いました。3・4 月の全イベント中止、会場使用不可など予想しなかった事態の発生、従って通常総会開催とその準備がすっかり狂ってやっと決定にこぎつけることができました。イベント日程も完璧な検討が出来ていませんが、このあたりの事情を汲み取っていただき週刊ニュースをご覧になっていただきまして、一層のご協力をお願いいたします。

●5 月度も新型コロナウイルス感染防止のためイベント中止の方向が強まる。河川レンジーは中止決定

里山の会の活動の大半が野外での取り組みが中心になっています。密集密接密閉という三密には比較的よく対応できたものと思いますが社会のムードが大きな流れになっている折、活動は差し控えなければならないのが実情です。来る5月に予定しているものについても開催を自粛すべきではなかろうかという雰囲気となっています。私たちの活動で切っても切れない河川レンジャーの取り組みは国交省から5月も全面的に活動を中止するとの通達が回っています。何とか工夫をしたいと思いますが、一日も早い終息を願うのみです。

●5月3日 晴天の場合レンリソウ保護の抜草作業 呼びかけ 玉水橋東詰めに集合 10時～12時

コロナが人間社会では全世界で大問題になっていますが、季節の移り変わりは大きく変化しています。5月に入ると25度が予想される気温が伝えられています。里山の会が近畿地方で絶滅しとされていたといたレンリソウを発見したのは木津川堤防でした。その堤防の草たちも随分と気温の上昇によって大きく成長しました。4月25日には伊藤さんが管理地で成長した苗を発見されています。また新しくウマノスズクサ(ジャコウアゲハやホソオチョウの食草)群生地にも出会っておられます。毎年5月の連休日に雑草の引き抜きを行って保全対策を実施しています。カラシナやアカツメクサ、セイバンモロコシなどを撃退してきました。今年は何が大きくなっているのでしょうか。力を合わせ木津川の代表植物レンリソウを守りたいと思います。ご参集ください。お越しをお待ちしています。

●4月29日一カ月ぶりに事務局会議開催

感染防止のために事務局会議の開催を自粛してきましたが、総会決議の確認を行うために久しぶりのご参集をお願いしました。6人の皆さんの出席がありました。コロナの話題の後、一通りの報告確認の後、各人から補強発言が続きました。ヤマトサンショウウオは昨年より、半分の卵嚢数だったこと、各種報告や契約などが順調に進んでいること、そして4月度における活動についてまとめて文章で報告することを確認しました。

●伝統的河川工法による河川土砂管理について報告を十数回にわたってお知らせします。 竹門康弘先生提供

2 《研究目的》

本研究は、木津川下流で設置された伝統的河川工法の周辺河道で、地形や理環境の変化をモニタリング行い、河床の生息場構造や水勢動物の多様性に与える影響を評価することを目的とする。また、その成果に基づいて、伝統的河川工法を河川環境改善に用いるに際して有効な場所条件や設置法方等の検討を行うことによって、伝統的河川工法を河床地形管理活用する手法の確立に寄与することを目的とする。

3 《F S研究の内容と期待される成果の概要》

木津川下流では河川事業の一環として竹蛇籠水制設置や聖牛の設置が試験的に設置されている。本F S研究では、これらの竹蛇籠水制群や聖牛の上下流域の区間スケールの河床地形と伝統的河川工作物の近傍における微細な地形変化について現地調査によって調べるとともに河床変動計算を用いた浸食堆積過程の再現研究を行う。さらに、これらの範囲に生息する魚類と底生動物の生息状況を現地調査し、地形変化との対比関係を分析する、これらの調査研究によって、伝統的河川工法が河道内の物理環境や生物環境に及ぼす影響に明らかにできることが期待できる。(次号に続く)